



vol.38

この装備、本当に必要?

その①「パドルシフト」

このコーナーではクルマに関する
知になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

最近のクルマには様々な装備が装着されています。便利な装備もあれば、「本当にこれ必要なの?」と思えるような装備もあります。人によっては、せっかく付いている装備でも、クルマを購入してから一度も使ったことがない装備もあるかと思います。便利な装備が増えるのはうれしいことですが、その逆に装備が増えるとクルマの価格は高騰します。使わない装備の場合、むしろ無い方が軽量化でき動力性能のアップ・燃費の向上につながるのです。

そこで「くるまのざっがく」では、今回から数回にわたり、クルマの装備・機能について見つめ直していきたいと思います。

1 そもそもパドルシフトって何?

パドルシフトとは、ハンドルに付いているパドルでシフトを切り替えられる装置のこと。AT車やCVT車で思い通りのギアチェンジができるのですが、電子制御されているので極端なギアチェンジはできない特徴があります。

AT車やCVT車は本来、ギアを操作する必要がなく、自動的に変速する仕組みとなっています。

パドルシフトが装備されている場合、AT車でありながらMT車のようにシフトチェンジができ、MT車のような操作性を味わうことができます。

もともとパドルシフトは「F1」から生まれた技術であり、瞬時に変速できるようにと作られた仕組みです。

AT車でもMT車のような操作性を味わえるようにと、市販車にも採用されるようになりました。

搭載車は「ターボ」や「カスタム」などスポーツタイプの車が主流となっていますが、最近では軽自動車やファミリーカーへの導入も増えています。



↑ スポーツタイプの車に装備されていることが多いパドルシフト。ハンドル後部に装着されていることが多い。

2 パドルシフトのメリット&デメリット

メリット① MT車のような運転を楽しめる

メリット② 下り坂で減速できる

メリット③ 燃費が良くなる

デメリット① 慣れていないと操作が面倒

デメリット② 使い方次第では車に悪影響がある

デメリット③ 頻繁に使用する機能ではない

パドルシフトを装備していると、効率よくエンジンプレーキを使えるというメリットがあります。

確実にシフトダウンしてエンジンプレーキを効かせることができ、下り坂でブレーキが効かなくなる現象を防ぐことができます。

ブレーキトラブルのリスクが発生せず、より安全な走行が可能になります。

ただし、パドルシフトも万能ではありません。パドルシフトは電子制御が優先されているため、状況によってはドライバーの思い通りのギアにならない場合があります。例えば、エンジンの回転と明らかなアンバランス状態になるような操作はできません。この点はMT車との大きな違いとなります。

動作条件は車の取扱説明書に記載されているので、運転前にしっかりと確認しておきましょう。

3 パドルシフトの必要性は人それぞれ

つまりパドルシフトは、AT車に乗りつつ、MT車の操作性も味わいたい人向けの装備となります。峠道などを走る際には便利な装備なのかもしれませんが、毎日頻繁に峠道を走るドライバーも多いとは思えません。必要ないと感じている方も多いはずではないでしょうか。

そもそも「自在にシフトチェンジをすることができないと運転がつまらない!」というのであれば、パドルシフト付きのAT車を購入せずに、最初からMT車を購入すればいいということになってしまいます。実用性というよりも、カーライフを楽しむための装備なのかもしれませんね。

